

青山大学へ通う阿部明は、少し緊張した面持ちで受話器を上げ、就職志望先の会社へ電話を入れた。

「はい、上野商事です」

「私、青山大学の経済学部在籍している阿部明と申します。恐れ入りますが、人事担当の小野さんをお願いいたします」

「小野はただ今席をはずしておりますが」

「そうですか。何時頃お戻りになりますか？」

「一時には戻る予定になっております」

「それでは、一時頃に改めてお電話いたします。お忙しいところ失礼いたしました」
一時になると、阿部は再び上野商事に電話を入れた。

「はい、上野商事です」

「私、本日午前中にお電話をいたしました、青山大学の阿部明と申します。人事担当の小野さんはお戻りでしょうか？」

「はい、少々お待ちください」

暫くすると、人事担当者の低い声が受話器から聞こえてきた。

「お待たせしました。小野です」

「あの・私、青山大学の経済学部在籍している阿部明と申します。今、お時間は大丈夫でしょうか？」

「はい、構いませんよ」

「私、八月三十一日に行われました会社説明会に参加いたしましたして、御社への就職を希望しております。面接試験はまだ受け付けていらつしやいますか？」

「はい、まだ受け付けています。面接試験は来月の三日、四日、五日の三日間行いますが、三日と四日は既に定員になっていきますので、あとは五日になります」

「では、五日に面接をお願いしたいのですが」

「わかりました。では五日に面接の予定を入れておきます。それでは、あなたの大
学名、学部名、お名前をもう一度お願いします」

「はい、青山大学経済学部の阿部晶と申します」

「青山大学経済学部の阿部晶さんですね。面接会場は会社説明会の時と同じ、麻布の本社になります。当日は午前十一時までに一階奥の会議室の方に来てください。それから、面接試験を始める前に、一般常識と作文の筆記試験を行う予定になっています」

「わかりました。それでは、来月五日の午前十一時までに麻布本社の一階会議室の方に参りますので、よろしく願いたします。失礼します」

受話器を置くと、阿部は電話口のメモ帳に急いで記入した面接の日時と場所を、もう一よく確認し、就職活動記録ノートに書き写した。